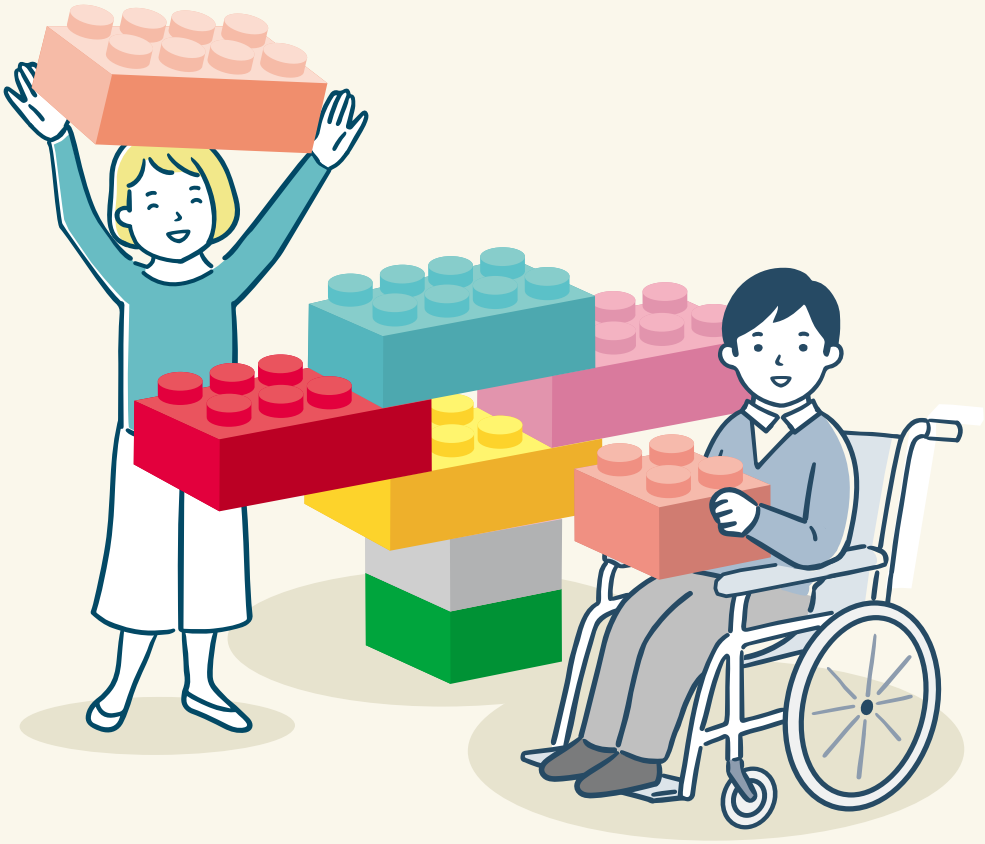
障害のある学生に配慮した防災対策の一歩

―日常業務に取り入れやすい対応のヒント―



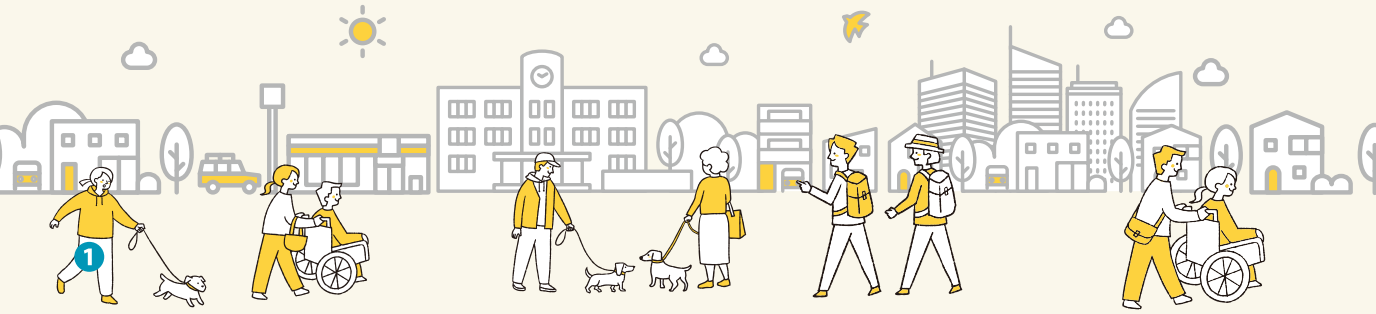
はじめに

2024 年４月より全ての高等教育機関において合理的配慮の提供が義務化されることに伴い、多くの大学が障害学生支援体制の構築や修学支援の充実に向け対応しているものと思われます。障害のある学生が学生生活を安全に送るために、「防災対策」が重要であることは誰もが理解しているところではありますが、目の前の修学支援に追われ、なかなか手が付けられていない大学も多いのではないでしょうか？　また、いつどのような災害が起こるのかは誰にも予見できないため、あらゆる災害を想定して障害のある学生と防災について対話することは、とても難しく感じるかもしれません。

障害のある学生の防災対策に関する調査を２度行った結果（大沼･村中，2021；大沼・村中・星川，2023)、障害学生支援部署のマンパワーがあるからこそできる防災対策だけではなく、日頃の業務の一工夫でできる防災対策の報告がありました。このリーフレットは、障害学生支援部署が日頃の修学支援業務を行いながら、「防災対策を講じるための一歩」を踏み出すためのアイデアを集めたものです。人手や予算が多くなくても取り組みやすい事項に絞っています。また、スモールステップで取り組めるよう、防災対策事項を細分化して示しています。はじめから完璧な防災対策を講じることは困難ですが、少しだけ日常の業務にプラスして、できることから始めてみませんか？

このリーフレットが障害のある学生の防災対策に取り組む際の一助となれば幸いです。

大沼 泰枝



もくじ

1. 大学の防災対策の現状　…3p

2. 障害学生支援部署でできる防災対策のスモールステップ　…4p

- ステップ1　学内の防災対策に関する情報を集めてみよう
- ステップ2　障害のある学生に関する防災対策の情報を集めてみよう
- ステップ3　障害学生支援部署の防災対策を検討してみよう
- ステップ4　障害のある学生と防災について話してみよう
- ステップ5　学生と災害発生時に必要な配慮について検討してみよう
- ステップ6　学内で情報を共有してみよう

3. 障害学生支援部署における防災上の学内連携の実態　…11p

4. 障害学生支援部署における取り組み事例　…12p

神戸大学　「避難支援機器の使い方講習」
京都大学　「障害のある学生への防災情報のリマインドメール」
立命館大学「個別避難計画書作成のためのワークショップ」
香川大学　「防災の専門家と連携した防災訓練」

5. 参考文献・資料　…14p

6. おわりに　…14p

1. 大学の防災対策の現状（大沼・村中，2021）

2017 年２月に全国の国公立大学を対象に調査を実施し、79 大学（国立 43 大学、公立 36 大学）から回答を得ました。

全学的な災害時対応マニュアルに関して

「全学的な災害時対応マニュアルがある」という質問に対して、「はい」と回答した大学は 66 大学（83.5%）、「いいえ」と回答した大学は 13 大学（16.5%）でした。マニュアルが作成されている 66 大学中、「マニュアルに障害学生への対応が記載されている」という質問に対して、「はい」と回答した大学は３大学（4.5%）、「いいえ」と回答した大学は 63 大学（95.5%）でした。

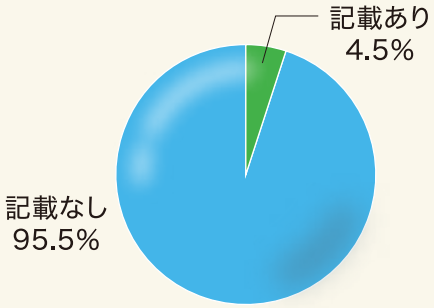


図１　災害時対応マニュアルにおける障害学生への対応の記載の有無

防災訓練・避難訓練における配慮について

「全学的な防災訓練・避難訓練が実施されている」という質問に対して、「はい」と回答した大学は 72 大学（91.1%）、「いいえ」と回答した大学は４大学（5.1%）、「一部の部局で実施している」ことが明らかになった大学は３大学（3.8%）でした。

全学的な防災訓練における障害のある学生への配慮について検討した結果、防災訓練･避難訓練を実施している 72 大学中、「全学的な防災訓練で、障害学生への配慮を行った経験がある」という質問に対して、「はい」と回答した大学が 14 大学（19.4%）、「いいえ」と回答した大学が 58 大学（80.6%）でした。

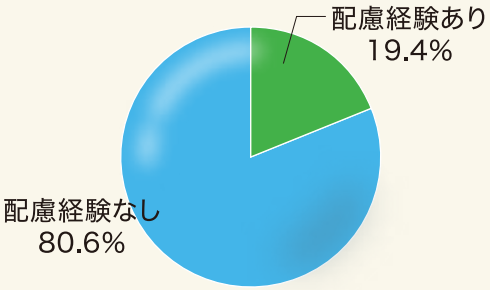


図２　全学的な防災訓練における障害学生への配慮

2. 障害学生支援部署でできる防災対策のスモールステップ

ステップ1 学内の防災対策に関する情報を集めてみよう

★ステップ１、２は障害学生支援部署の担当者が一人でもできる対応です。

学内の防災対策の担当部署を把握する

大学の組織は大変大きいため、防災対策を担当する部署を把握することから始めてみましょう。将来的に、障害のある学生の防災対策について相談する先になる可能性があります。

学内の災害時対応マニュアルを把握する

災害発生時や緊急時に大学の職員としてどのような対応をとることになっているか確認をしておきましょう。

マニュアルに障害学生支援部署の役割や障害のある学生の対応について記載があるか確認しましょう。

学内の安否確認方法を把握する

学生および教職員など、大学の構成員の安否確認の方法がどのようになっているか調べてみましょう。事前に登録しておかないと緊急時に利用できない可能性もありますので、登録などを忘れないようにしましょう。

学内の防災訓練の情報を集める

大学の防災訓練がどのように開催されているか把握しましょう。大学によって、開催される時期やキャンパス、訓練内容、対象者（学生の参加の有無）など、大きく異なります。

障害学生支援部署の担当者が防災訓練に参加する

大学の防災訓練に参加してみましょう。避難経路や避難場所の把握ができます。参加後に改めて、支援している障害のある学生が実際に避難する場合の問題点などについて考えてみましょう。

ステップ2 障害のある学生に関する防災対策の情報を集めてみよう

障害のある学生の所属する学部・研究科の災害時対応マニュアルを把握する

大学によっては、キャンパスごと、学部・研究科ごとに防災対策に関する取り決めが異なる場合があります。

特に避難誘導時に支援が必要な学生（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害のある学生）が在籍している場合は、その学生が利用するキャンパスの防災対策の情報を集めておきましょう。

障害のある学生の学内の移動について把握する

大学では、学期ごとに学生の時間割は変わっていきます。また、他学部の授業を受講する場合や学外実習がある場合など、障害のある学生がいつも同じキャンパスにいるとは限りません。そのため、障害のある学生の時間割を学期ごとに把握しておきましょう。防災対策のためだけではなく、修学支援を行う上でも、学生の時間割を把握することは重要です。

check

障害学生支援にかかわる災害対策コンサルテーション

東京大学 PHED の SIG-EP 災害等の緊急時対応検討グループには、防災の専門家もメンバーにおり、大学の災害対策のコンサルテーション（マニュアルの検討、避難シミュレーション・ワークショップの開催など）を行っています。学内だけで対応が難しいときは、外部のリソースを積極的に活用してみましょう。

ステップ3 障害学生支援部署の防災対策を検討してみよう

★ここまでは、障害学生支援部署の担当者が一人でできる対応でしたが、ステップ３は、「障害学生支援部署」としての対応になります。

災害発生時の障害学生支援部署の対応について検討する

障害学生支援部署で学生面談を行う場合や、学生の「居場所」を運営している場合、災害発生時に学生にどのような対応をとるべきか検討しておく必要があります。どのように障害学生支援部署内にいる学生やスタッフを避難誘導するか、スタッフ全員で検討してみましょう。

緊急時の持ち出し品について検討する

障害学生支援部署では、様々な学生の情報を取り扱っています。緊急時に持ち出す必要のある資料や物品などはないか、平時に検討をしておきましょう。

災害発生後に、日頃支援している学生に連絡を取る場合など、名簿などのリストがないと対応が困難になります。

災害発生後の支援学生への対応について検討する

学生の安否確認については、安否確認システムを使って、大学本部が主体で行う場合もあれば、学生の所属する学部･研究科が主体で行う場合もあり、大学によって異なります。障害学生支援部署として障害のある学生の安否確認をする必要があるかについて検討をしましょう。

設備について検討する

障害学生支援部署内に、地震発生時、危険になるような箇所がないか確認しておきましょう。可動式のパーテーションやモニター、支援機器を収納した棚、パソコンなど、地震で大きな揺れが生じた際に転倒や落下で危険な箇所は、防災対策グッズなどを利用して基本的な対策をしましょう。

ステップ 4

障害のある学生と防災について話してみよう

★ここからは、いよいよ障害のある学生へのアプローチとなります。

障害のある学生と防災について話をする

入学決定後すぐに防災対策について検討すべき学生（自力で移動が困難な学生）もいるかと思われます。特に高校や家庭でどのような防災対策を講じていたかについて、情報の取得が必要な学生については、入学前後の段階で話をしていくのが良いでしょう。

その他の学生については、大学生活に慣れたころに話をしてみるのが良いでしょう。「大講義室での授業時や混雑した食堂にいた時に、地震や火災が起きて避難が必要になったらどうなりそう？」などのように、具体的な場面を想定して話をすると、「ちょっと心配です。」のような声が聞かれることが多いです。

防災訓練について話をする

大学で防災訓練が行われるのをきっかけに、防災について話をしてみるのも良いでしょう。特に新入生は、どのような訓練が行われるのかを知らないため、防災訓練に関する情報を伝えつつ、参加を促してみると良いでしょう。防災訓練の参加にあたって配慮が必要な学生については、必要な配慮について学生と検討し、関係者と情報共有することが重要です。

check

防災対策を通じてセルフアドボカシーの力を育てる

大学での生活は、高校までと異なり、教師やクラスメイトがいつも近くにいるわけではありません。緊急時には自分のことをほとんど知らない人に状況を説明し、対応を求める必要もあります。一人暮らしの学生は、避難生活での対応も検討する必要があります。防災について考えるプロセスを通じて、学生自身が障害と向き合い、自身に必要な支援や配慮について考えることは、セルフアドボカシーの力の育成につながると考えられます。

ステップ5 学生と災害発生時に必要な配慮について検討してみよう

災害発生時に必要な配慮について検討する

障害のある学生の障害特性によって、災害発生時に必要な配慮はそれぞれ異なります。まずは、授業中に災害が発生した時の対応について検討してみるとよいでしょう。「エレベーターが使用できない場合、どのような移動方法が適切であるか」、「同じ教室にいる科目担当教員や学生にどのような対応を求めるか」、「避難に関する情報にどのようにアクセスするか」などが検討事項となるでしょう。

災害発生直後の混乱した状況で、検討した配慮を受けられる100%の保障をすることは難しいでしょう。大学での生活は、時間ごとに人的環境（一緒の空間にいる教員や学生）や物理的環境（使用する教室の環境）が変化するからです。災害時対応について検討する作業は、学生にとっても支援者にとっても、唯一無二の正解がないという点で行き詰まりを感じるかもしれません。重要なのは、できるだけ多くの場面を想定しながら、学生と話し合うというプロセスです。

check

個別避難計画について

災害発生時の対応について話し合った結果を、「個別避難計画書」のような形でまとめると、情報が整理され関係者とも情報が共有しやすいです。作成した「個別避難計画書」は、紙媒体の他に、スマートフォン等で閲覧できるようにするなど、いざというときに手元で参照できる状態にしておく方が良いでしょう。最初から全ての障害のある学生に対して作成することは困難なため、避難時に支援を必要とする学生や災害発生時に配慮を希望する学生から作成してみると良いでしょう。

「個別避難計画書」は、立命館大学障害学生支援室（2020）や東京大学バリアフリー支援室（2016）が具体的な作成の手順などを公開しているので、参考にできます。

情報共有先を検討する

学生と話し合った事項を、どのように関係者に伝えるかについても検討しましょう。授業中の対応については、授業における配慮事項について科目担当教員などに周知するための「配慮依頼文」に掲載するのも１つの方法です。

情報の共有先としては、学生の所属する学部・研究科、大学の防災対策担当部署、保健管理センターなどが考えられます。サークル活動を行っている学生であれば、顧問やサークルの仲間に伝える必要もあるかもしれません。

ステップ 6 学内で情報を共有してみよう

★学生に同意を得た範囲内で情報共有をします。

障害のある学生の所属する学部・研究科との情報共有

障害のある学生と検討した防災対策事項について、担当者と情報共有をしましょう。共有した情報を「学部・研究科の会議で報告する」、「文書で通知する」など、どのような方法で関係する教職員に周知するか検討してもらいましょう。

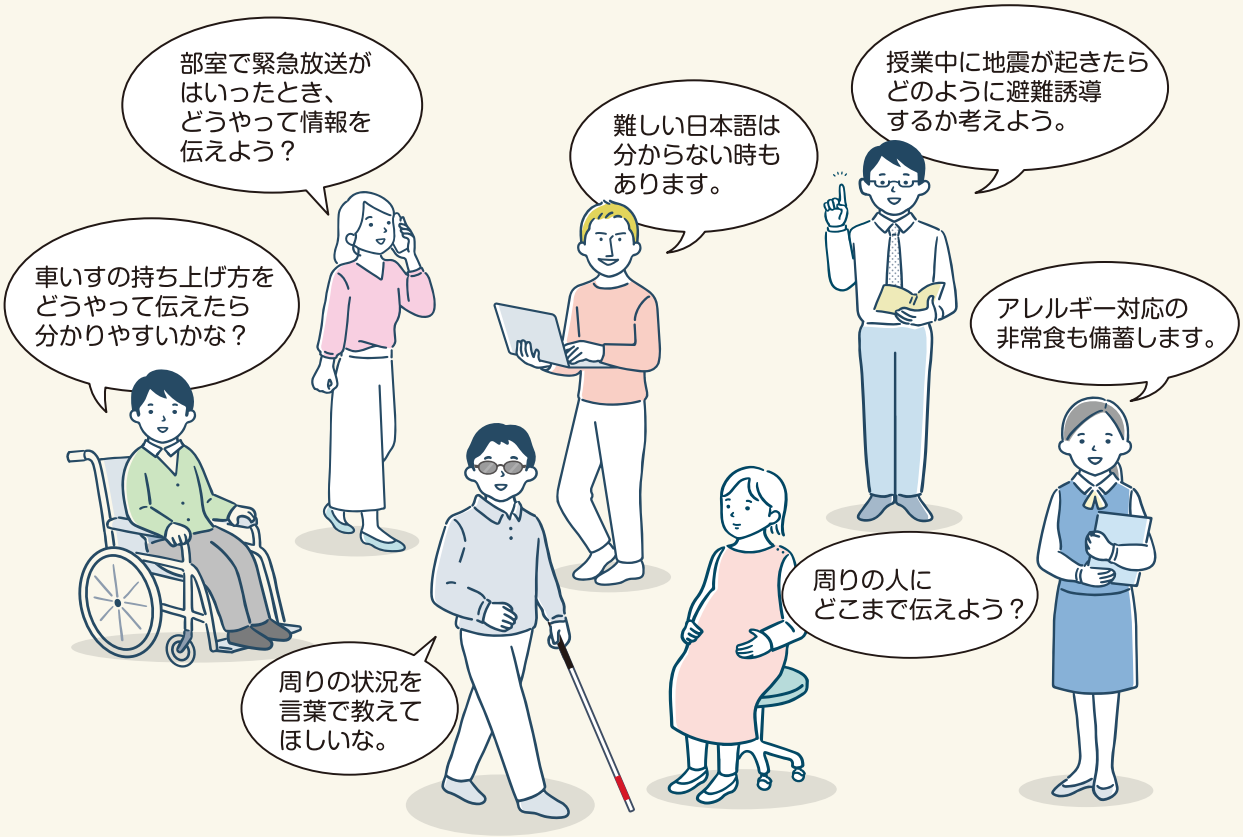
「車いすを人力で階段から降ろす」など、避難方法について文書での伝達だけでは難しい場合は、学生にも協力を仰ぎ、実際に練習してみることをお勧めします。

大学の防災対策担当部署との情報共有

防災対策の担当部署と情報共有する意義は、大学に配慮が必要な学生がいることを知ってもらうことにあります。担当者がそのことを知らないと、防災計画を立てたり、防災訓練を実施する時などに、配慮することができません。まずは、知ってもらうことが重要です。

障害のある学生の防災対策の考え方

★大学の多様な構成員に配慮した防災対策は、大学の防災対策の充実につながります。



目指すはインクルーシブ防災

check

障害学生支援部署で防災対策を講じることについて

障害のある学生の防災対策に関する研究を進める中で、大きな震災があった地域の大学を訪問すると、「障害ある学生の防災対策は、大学全体の防災対策の中に位置づけるべきである」というご意見をいただくことが多かったです。もちろん、障害学生支援部署だけで障害のある学生の防災対策を背負うことはベストな対応ではありません。ただ、大学の防災対策において障害のある学生の対応を議論するためのきっかけを作るのは、障害学生支援部署の役割ではないかと考えられます。

3. 障害学生支援部署における防災上の学内連携の実態（大沼・村中・星川，2023）

2020 年 12 月に全国の国公私立大学を対象に調査を実施し、186 大学（国立 36 大学、公立 26 大学、私立 122 大学、不明 2 大学）から回答を得ました。「障害学生支援の専門部署・機関がある」あるいは「専門部署・機関はないが他の部署・機関が対応している」と回答した 170 大学を対象に分析を行いました。

防災対策担当部署との連携

学内の防災担当部署と障害のある学生への防災対策の目的で情報共有している大学は、27 大学（15.9%）でした。

具体的には、「防災訓練に関わる情報共有」８件が最も多く、「災害時の避難、支援方法の情報共有」６件、「学生の障害に関する情報共有」４件の順に情報共有がされていました。

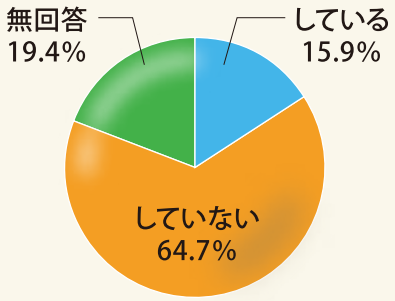


図３　防災担当部署との情報共有

障害のある学生の所属する学部・研究科との連携

障害のある学生の所属学部・研究科と災害時対応について検討した事例がある大学は 27 大学（15.9%）でした。

対象学生の障害種別としては、「肢体不自由」20 件、「聴覚障害」７件、「視覚障害」２件、「発達障害」２件の順に対応が検討されていました。

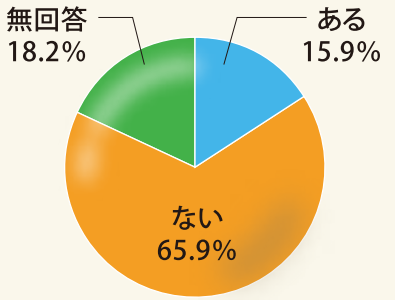


図４　学部・研究科と災害時対応を検討した経験

まとめ

防災対策担当部署との連携は、防災訓練をきっかけにすると情報共有がしやすいようです。学生の所属する学部・研究科との連携は、移動や避難情報へのアクセスに困難がある学生への対応に関連して行われることが多いようです。

4. 障害学生支援部署における取り組み事例

CASE 1

＜避難支援機器の使い方講習＞　神戸大学

避難支援機器の体験講習会を毎年 9 月に複数回実施しています。利用体験を通じて、災害発生時に機器を使うことができる教職員を増やすことを目的にしています。講習会は、①動画を用いて機器を説明し、②学内の階段を使って利用体験という流れで行っています。毎年実施するためには、企画側と参加者側に負担が少ないこと（1 時間以内のプログラム、準備物が少ないなど）が一つの鍵になります。なお、企画者側（支援室スタッフ等）の支援機器利用の復習にもなります。体験講習には、教務学生係など実際に障害学生と関わる可能性が高い職員だけでなく、学外者を受け入れる部門からの参加もあります。参加をきっかけにして、災害発生時の対応を部門で再考したり、避難支援機器の購入につながった例もあります。

POINT | 避難支援機器に触れる機会が繰り返し設定されています。

CASE 2

＜障害のある学生への防災情報のリマインドメール＞　京都大学

DRC（障害学生支援部門）を利用する学生を対象に、半年に 1 回、防災に関する情報をメール送信する取り組みを 2021 年より始めています。リマインドメールはチェックリストの形式になっています。具体的には、①非常用持出バッグ（バッグの中身の確認）、②避難経路・避難場所（避難場所や避難所、避難経路の確認）、③その他（自分のニーズの伝え方、家族との安否確認方法）などを点検できるようになっています。それぞれのチェックリストに関連する情報が掲載された URL（京都大学地震対応マニュアル、京都市防災ポータルサイトなど）も一緒に提示されており、不足している情報を学生が自ら調べやすくしています。この他、防災に関するワークショップやテーブルミーティングの開催など、様々な企画を行っています。

POINT | 障害のある学生が自主的に防災対策を考える仕組みになっています。

CASE 3

＜個別避難計画書作成のためのワークショップ＞　立命館大学

2018 年に大阪北部地震や西日本豪雨などの災害が発生したことをきっかけに、避難時に支援が必要な障害学生を対象とした「個別避難計画書作成のためのワークショップ」を実施しています。ワークショップは、①事前研修、②シミュレーション、③個別避難計画書の作成という３つの要素から構成されています。①事前研修では、障害学生と複数のサポートする学生らが一緒に参加し、個別避難計画書の目的や作成方法を学びます。②シミュレーションでは、障害学生がよく利用する建物で、安全に避難する方法を確認していきます。③個別避難計画書の作成では、シミュレーションをもとに、再度グループで話し合いを行い、障害学生が計画書を完成させます。作成した個別避難計画書は、常に携帯するよう障害学生に伝えています。なお、障害状況によって、ワークショップの進め方は適宜工夫しています。

POINT　個別避難計画書の作成を学生が主体的に考え実践する仕組みがあります

CASE 4

＜防災の専門家と連携した防災訓練＞　香川大学

避難時に支援が必要な学生が在籍していた 2017 年と 2019 年に、防災訓練を開催しました。障害学生支援部署のスタッフは、防災対策に関する知識に乏しいため、学内の防災の専門家（四国危機管理教育･研究･地域連携推進機構）に協力を仰ぎました。防災の専門家と連携することによって、訓練に防災サポートチームの学生や消防署の職員の方にも参加いただけることになりました。搬送方法の訓練には専門的知識が必要なので、技術的な指導をいただき大変心強かったです。

その他、ピア・サポーター学生、学生の所属するサークルの学生、学生の所属する学部の教職員、全学の防災対策担当部署の職員、学生の修学支援に関係する職員など、多くの参加者にご協力いただきました。

POINT　防災の専門家と連携することで、対応の幅が広がります

5. 参考文献・資料

大沼泰枝・村中泰子（2021）．障害のある学生を対象とした防災対策に関する現状と課題ー国公立大学への実態調査の結果からー　安全教育学研究，20(2)，51-62.

大沼泰枝・村中泰子・星川賀奈（2023）．障害学生支援部署における防災上の学内連携に関する調査報告　全国高等教育障害学生支援協議会第９回全国大会ポスター発表抄録，36.

立命館大学障害学生支援室（2020）．障害学生等の災害時対応ハンドブック第２版 https://www.ritsumei.ac.jp/drc/publications/pdf/saigaijitaiou-handbook.pdf

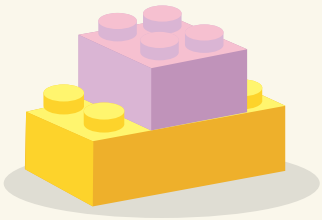
東京大学バリアフリー支援室(2016). 障害のある学生へのバリアフリー支援ガイド改訂版, pp.58-59. https://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/material/pdf/20160421132857.pdf

東京大学 PHED 災害等の緊急時対応に関する専門部会 SIG-EP．災害等の緊急時対応に関する QI（Quality Indicator）　https://phed.jp/sig/ep/#sec-qi

6. おわりに

　このリーフレットで提案する防災対策の「ステップ１」～「ステップ６」には、ブロックのイラストが使用されています。「ステップ１」から数字の順番に対応するとスムーズですが、必ずしも順番通りに対応しなければならないわけではありません。あくまで「対応できること」、「やりやすいこと」から参考に実践してみてください。ある大学にとっては、「ステップ３」と「ステップ５」だけで良いかもしれません。ブロックで自由に形を作るように、それぞれの大学にあった防災対策の形を作っていただきたいと考えています。もちろん「ステップ１」だけでも立派な第一歩です。

　大学の取り組みを紹介するにあたり、ご協力いただいた神戸大学インクルーシブキャンパス＆ヘルスケアセンター障害学生支援部門、京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門、立命館大学障害学生支援室の皆さまに感謝申し上げます。

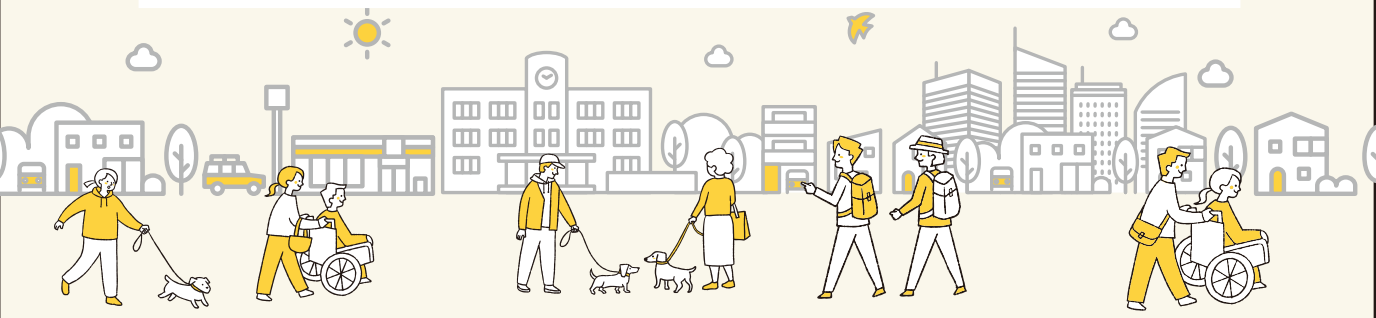


障害のある学生に配慮した防災対策の一歩
― 日常業務に取り入れやすい対応のヒント ―

2024 年 2 月発行

研究代表者：大沼泰枝

香川大学学生支援センターバリアフリー支援室
〒760-8521　香川県高松市幸町１番１号
TEL：087-832-1399
ホームページ　https://www.kagawa-u.ac.jp/bf-support/

＜研究協力者＞
村中泰子　神戸大学インクルーシブキャンパス＆ヘルスケアセンター
障害学生支援部門

＊このリーフレットは、JSPS 科研費 JP19K23317「障害のある学生を対象とした防災対策におけるネットワーク構築に関する研究」の成果をまとめ、作成したものです。